

「ユダの裏切り」

2015年12月23日

ルカによる福音書 22章 47節～53節。イエスがまだ話しておられると、群衆が現れ、十二人の一人でユダという者が先頭に立って、イエスに接吻をしようと近づいた。イエスは、「ユダ、あなたは接吻で人の子を裏切るのか」と言われた。イエスの周りにいた人々は事の成り行きを見て取り、「主よ、剣で切りつけましょうか」と言った。そのうちのある者が大祭司の手下に打ちかかって、その右の耳を切り落とした。そこでイエスは、「やめなさい。もうそれでよい」と言い、その耳に触れていやされた。それからイエスは、押し寄せて来た祭司長、神殿守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのか。わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」

主イエスは、オリーブ山のゲツセマネでひざまずき、汗が血の滴るように地面に落ちるほどの苦悩の祈りを捧げられた。その真剣な祈りは「御心のままに行ってください」という神の意思に委ね、従う祈りへと昇華された。立ち上がってみると、弟子たちは眠りかけていた。彼らを叱責された。そこへ、エルサレム神殿の衛士たちが松明を掲げ、剣や棒を持って、どかどかと現われた。先頭には弟子の一人ユダがいた。彼が、自分たちの宣教団が秘密の野営地にしていたオリーブ山に案内して来たのである。時は過越祭で、満月に近いが、オリーブの木陰が地面を暗くしている。捕える相手を間違わないように、主イエスへの接吻を合図にしていた。ユダは主イエスに近づいてきた。主イエスは「ユダ、あなたは接吻で人の子（私）を裏切るのか」と言われた。ルカ福音書は、実際に接吻をしたとは記していない。マルコ福音書 14章 45節には「ユダはやって来るとすぐに、イエスに近寄り『先生』と言って接吻した」と書いている。接吻はギリシヤ語で「フィレソー」というが、ユダが実際にしたフィレソーの前に「カタ」という言葉がついている。これは、強く深く抱きしめたという接吻である。接吻は愛と尊敬を表す仕草であるが、ユダは裏切りの合図にした。なぜ、彼は師イエスを売り渡したか。諸々の想像はできるが、確固とした動機は分からない。ただ、彼の心は屈折していたことは確かであろう。

主イエスの弟子たちは物々しい捕縛に、驚き動揺し「主よ、剣で切りつけましょうか」と口走った。一人の弟子は大祭司の手下に切りかかって、右耳を切り落とした。ヨハネ福音書は、剣で切りつけたのはペトロであったと書いている。直情的なペトロのやりそうなことである。主イエスは、「やめなさい。もうそれでよい」と暴力を止められた。ルカ福音書は、主イエスは切り落とした耳に触れて癒されたと、敵を思いやる姿を記している。

捕縛したとの連絡を聞いたのであろう、祭司長、神殿守衛長、長老たちが喜び勇んで、押し寄せて来た。主イエスは、彼らに「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのか。わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている」と語っている。

主イエスは毎日、神殿の境内で民衆に福音を語り、命を狙う祭司や律法学者たちと激しい論争をしていた。その時は、主イエスを尊敬する民衆を恐れて、手出しできなかった。真夜中に、民衆のいないオリーブ山で、ユダの手引きによって、念願の捕縛に成功した。この時、この場所は、愛と真実を押し殺す神殿当局の闇の力が支配していた。ルカ福音書には書いていないが、主イエスの捕縛を見て、弟子たちは皆、恐れて逃げ去った。